

選手として知っておくべきルール

- 目次 -

1. テニスを初めてプレーする選手へ

①テニスというスポーツとは	p 2
②コートと試合形式	p 2
③ポイント、ゲーム、セット	p 3
④タイブレーク	p 3
⑤サーブ	p 4
⑥審判について	p 4
⑦ロービングアンパイア	p 4

2. テニスのルールを既に知っている選手へ

①審判の方式によって変化する内容	p 5
②けいれんについて	p 6

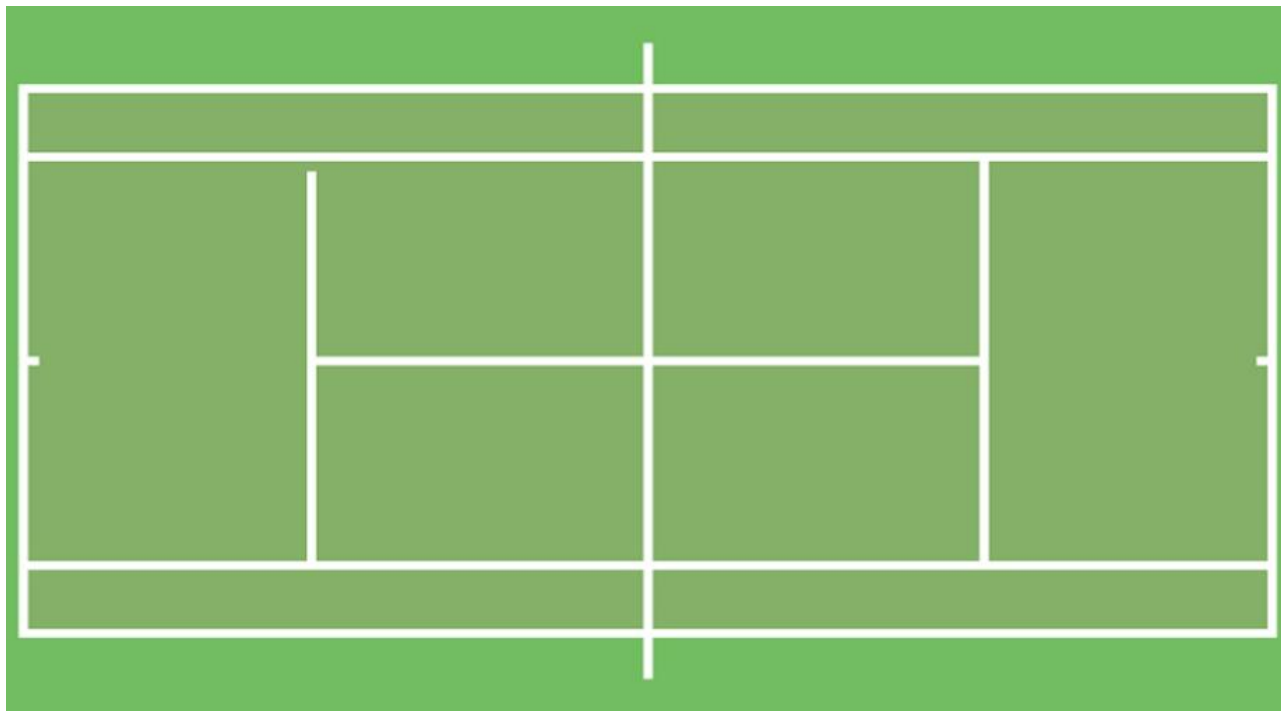
1. テニスを初めてプレーする選手へ

①テニスというスポーツは

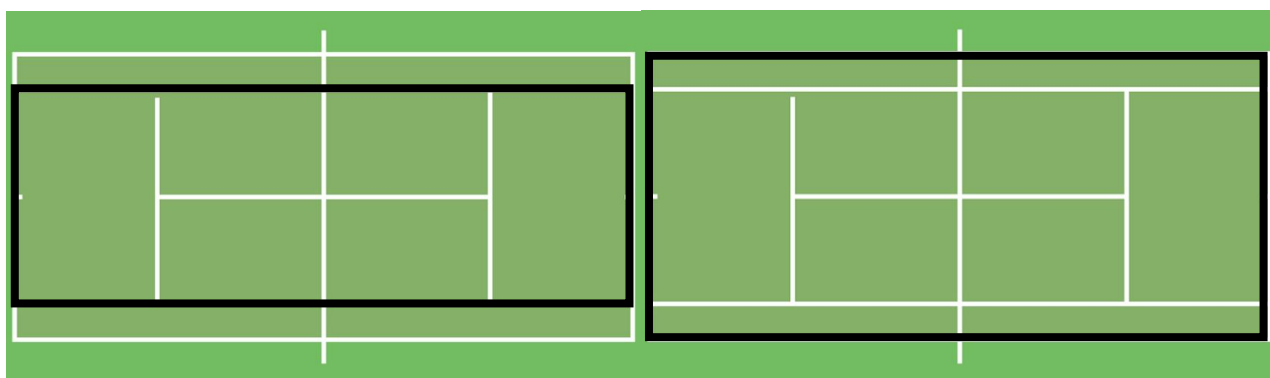
テニスというスポーツはコート上で、ラケットを使ってボールを相手と打ち合い、「相手コートに2バウンドさせる」又は「自身のコート内に打ち返させない」ようにしてポイントを積み重ねていくスポーツです。これを何度も続け、どちらかが試合方式に則った分だけポイントを先に積み上げた方が勝者となります。

②コートと試合形式

テニスでは、ボールを返球する際に返す場所が決まっています。下図はコートを真上から見た図です。



テニスには1対1で行う「シングルス」と2対2で行う「ダブルス」があります。それぞれ、返球する範囲が違い、その範囲外にボールが落ちた場合は「アウト」となり、相手のポイントになります。



シングルの範囲

ダブルスの範囲

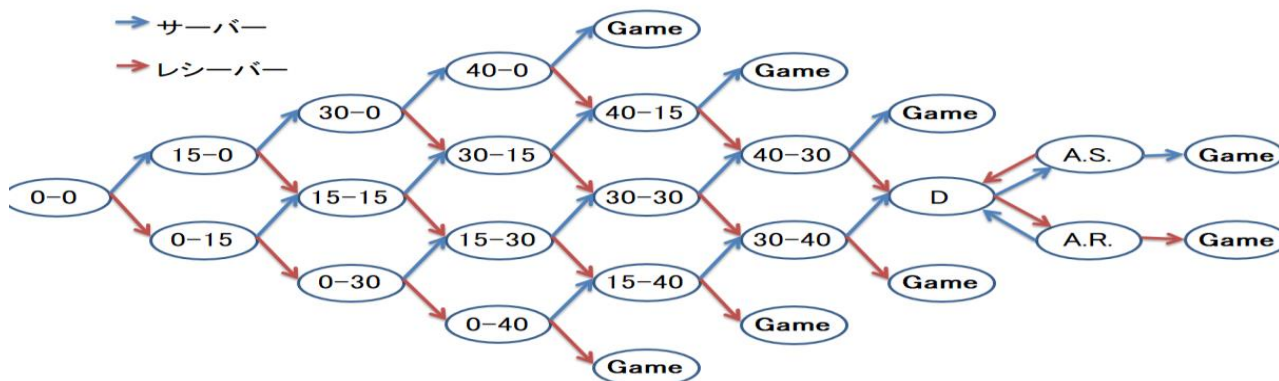
テニスの試合形式は大会によって異なりますが、ここでは大きく3つに分類します。

- 「3セットマッチ」 プロや全国大会等で行われる形式
- 「8ゲームプロセット」 東北大会や県大会準決勝以降等で行われる形式
- 「1セットマッチ」 県大会でよく行われる形式

③ポイント、ゲーム、セット

テニスのスコアについて説明します。下図をご覧ください。

ポイント表



4点を先に取ると「1ゲーム」となり、点数の言い方が以下のようになっています

- ・ポイントなし 0 ラブ
- ・1ポイント 15 フィフティーン
- ・2ポイント 30 サーティー
- ・3ポイント 40 フォーティー
- ・4ポイント ゲーム

ただし、40-40となった場合は「デュース(図ではD)」となり、この後はどちらかが2点連続でとったプレイヤーが1ゲーム取得となります。

また、テニスでは「サーブ」というショットがありますが、これは1球目を打つショットです。1ゲームが終わるまでは、このサーブを同じ人が打ち続けます。サーブを打つ人を「サーバー」と言い、サーブを返球する人を「レシーバー」と言います。1ゲームが終わったらサーブを打つ人を交代して、また1ゲームを行います。

「1セットマッチ」とは、ゲームの取り合いを行い、先に6ゲームを先取したプレイヤーの勝利です。

ゲームスコアが5-5となった場合は2ゲーム連続で取ったプレイヤーの勝利です。ただし、6-6となった場合は「タイブレーク」という形式をとります。

「8ゲームプロセット」では、ゲームの取り合いを行い、先に8ゲームを先取したプレイヤーの勝利です。ゲームスコアが7-7となった場合は2ゲーム連続で取ったプレイヤーの勝利です。ただし、8-8となった場合は「タイブレーク」という形式をとります。

「3セットマッチ」は1セットマッチを2回連続で取ったプレイヤーの勝利です。セットカウントが1-1となった場合は、3セット目をとったプレイヤーの勝利です。

(例)Aさんからサーブの場合
(サーブを打つ人を○で表記)

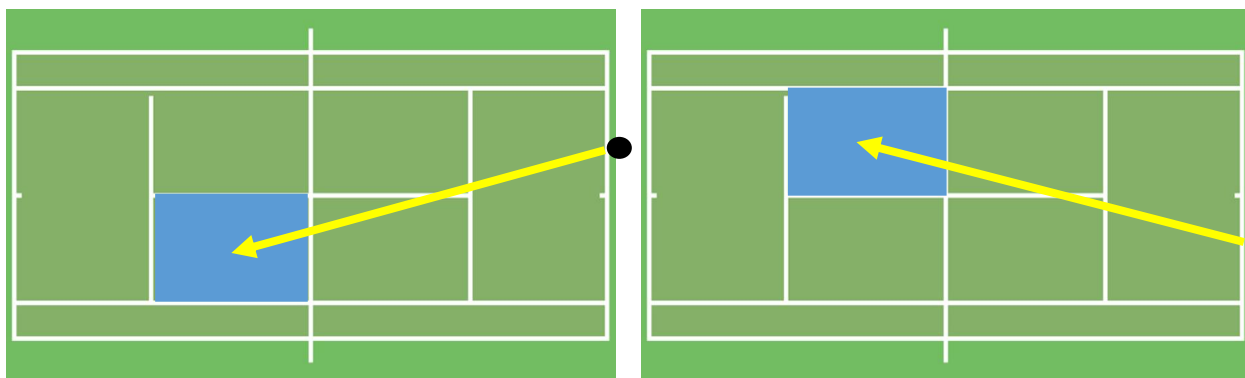
	A	B
1ポイント目	○	
2ポイント目		○
3ポイント目		○
4ポイント目	○	
5ポイント目	○	
6ポイント目		○

④タイブレーク

③で記載した「タイブレーク」とは、1セットマッチのゲームスコア6-6や8ゲームの8-8の状態で行うルールです。ここでは、「ゼロ」、「ワン(1)」、「ツウ(2)」、「スリー(3)」…と得点を数えていきます。相手より2ポイント以上の差をつけて先に7ポイント取ったプレイヤーの勝利です。6-6となった場合は、2ポイントの差がつくまで続けます。サーブの順番は、最初に打つ人は1ポイント目を終えたら、相手にサーブを交代し、以降は2回ずつポイントを終えたら交代になります。

⑤ サーブ

1球目に打つショットを「サーブ」と説明をしましたが、このサーブだけは打つ場所が限定されています。



サーブの打つ場所は、サービスボックスというネット付近の四角い箇所のうち、ネットを越えて対角線上の場所に打たなければいけません。サーブは2回まで打つ権利があり、1回目を失敗すると「フォルト」と言い、2回目のサーブを打つことになります。2回目も失敗をすると「ダブルフォルト」となり、失点となります。サーブはポイント毎に打つ場所が右側→左側→右側→左側→・・・と交互に打ちます。ラリーの練習だけでなく、サーブもしっかり練習しておきましょう。

⑥ 審判について

高校生の試合において、審判がつく試合とそうでない試合があります。また、審判がつく試合の場合、審判員も原則高校生です。ここでは3つの審判方法について簡単に説明します。

- (1) セルフジャッジ 全てのジャッジを選手自身で行う。
- (2) SCU方式 ジャッジは原則選手が行う。特別な場合のみ審判台にいる人が判断をする。
- (3) 4人～10人制審判 審判台に乗る人とコート内にいる審判(3人～9人)がジャッジをする。

詳しくは、別資料に記載していますのでそちらをご覧ください。

⑦ ロービングアンパイア

大会会場にはコート周辺にロービングアンパイア(以下RU)というコートを巡回している大人(主に先生方)がいます。試合中に何か困ったことが発生した場合は、コート内で手をあげてRUに「困っています」とアピールしてください。ルール上のトラブルや確認、けがをした、相手選手が来ない等、様々なことに対応してくれます。ただし、自分で解決できるようにルールを把握してください。RUは1人で多くのコートを巡回しています。他のコートにも迷惑をかけることになるので、呼びすぎは控えるようにしましょう。

2. テニスのルールを既に知っている選手へ

ここでは、既にテニスの大会に出場できる程度にルールを知っていて、スムーズに試合進行もできる選手に向けて、確認しておいてほしいルールを記載します。上級者も一度目を通しておくと良いでしょう。

①審判の方式によって変化する内容

審判の方式は、大きく3つに分類されます。

- ・セルフジャッジ 全てのジャッジを選手自身または選手同士で行う。
- ・SCU方式 ジャッジは原則選手が行う。特別な場合のみ審判台にいる人が判断をする。
- ・4人～10人制審判 審判台に乗る人とコート内にいる審判(3人～9人)がジャッジをする。

SCU方式と4人～10人制審判でジャッジをする場面と人が変わります。その内容は以下の表の通りです。

	アウト、フォルトのジャッジ	サービスレット・ラリー中の レットのコール	フットフォルト
SCU方式	原則選手が行う	原則SCUがとる	SCUがとる
4～10人 制審判	全て審判が行う	審判がとる	審判がとる

(1)セルフジャッジについて

セルフジャッジでは選手間で試合を進めることとなります。トラブルを避けるため、以下のことに気をつけましょう。

- ① 判定が難しい場合は「グッド」(相手を有利にしてあげる)
- ② 「アウト」や「フォルト」はボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたとき。
- ③ サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンス。
- ④ ジャッジコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに。
- ⑤ コートの外の人、セルフジャッジへの口出しはしない。

特に③や④は、試合をすることに慣れるとやらなくなってしまう人が多いです。セルフジャッジでは初級者も上級者も必ず行うようにしてください。

(2)SCU方式について

SCU方式では「原則」という言葉が使われます。ここでは、例外について説明します。

アウト、フォルトのジャッジ

明らかにジャッジが間違っている場合(ボール1個分内側でイン、ボール1個分外側でアウト等)にSCUからのオーバールール(ジャッジの訂正)が入ります。状況によって「ポイントのやり直し」か「ポイントの有効」になります。

サービスレット・ラリー中のレットのコール

SCU方式ではSCUがレットを取ります。ただし、片方の選手がレットをコールをしてしまった場合、状況によって3つのパターンに分かれます。

- (1) 相手選手も明らかにレットだと認識している→レット
- (2) 相手選手はレットだと認識していなく勝手にラリーを止める→失点
- (3) 相手選手はレットだと認識していないがラリーを続けてしまい、ポイントが終わった→ポイント有効

②けいれんについて

試合時間が長い・試合数が多い・大会期間の最終日・夏場で体力消耗が激しい等、様々な理由で「けいれん」が起きることがあります。けいれんが起き、どうしてもプレーの続行ができない場合は、まずRUを呼んでください。その後の処理は以下のようになりますので、覚えておきましょう。

